

元気の出る情報・交流誌

手をつなぐ

2025

5月

No.831

特集

守りたい情報、使いたい情報

今月の問題 — 10月から始まる「就労選択支援」で何が変わる？

ひびき — モモティー(ティクトッカー)



CONTENTS

手をつなぐ

2025.5 [No.831]



表紙絵「大好きな36+3」

■尾崎 矢(おさき・なおや) 42歳
■鹿児島県阿久根市
社会福祉法人青陵会デイハウス
ふたば
■作者からのひとこと
いつか乗りたいと夢見ながら、毎日
仕事をがんばっています。

一つ屋根の下でくらすせんせいと「わたしの自立」を考える [第8回]

ゆとりを持つこと Aju・永浜明子

02 わたしたちも言いたい

あきらめなければ夢は叶う 浅沼 徹

03 知りたい!あなたの見ている・感じている世界 [第14回]

本当のお得とは? 竹中 均

07

特集

守りたい情報、 使いたい情報

知っておきたい!個人情報の基礎知識

08 ・知的障害者の情報を守り、活かすために 又村あおい

10 ・個人情報って何? 安心して暮らすための大切なルール 西山裕之

どう守る? どう活かす? 現場での個人情報保護

12 ・入所施設・グループホームで求められる個人情報の適切な管理 小林 哲

14 ・個人情報保護が変えた学校とPTAのかたち 小野田由夏

16 ・「書類にサインしてもらうこと」相談員としてその重みと向き合う 奥田佳子

18 ・適切に扱えばこそ、個人情報はもっと価値を持つ 大竹尊典

悩みを通して考える情報のあり方

20 ・事業者が抱える悩みとは

22 ・本人・家族の体験や本音を集めました

24 個人情報と正しく向き合うために

投稿を受けて情報に関する理解を安心につなげる 『手をつなぐ』編集部

27 今月のオススメ

28 ひびき

何でも自分で背負い込まず、困ったときは助けてもらっていい モモティー

31 いっしょに話そう! 性のこと。[第26回]

学校のタブレットで性的画像や動画を見ている子ども、どうしたらいい? 門下祐子

32 今月の問題

10月から始まる「就労選択支援」で何が変わる?

36 けんりって何?

第15回権利擁護セミナー in 兵庫を開催 高野淑恵

38 あなたの街の育成会

ミドル・シニア福祉人材活躍の必然性について考える 仁田坂和夫

40 暮らしを支える福祉の制度 [第51回]

意思決定支援について その4 又村あおい

42 中央の動き

強度行動障害児者の地域支援体制に関する検討会報告について (その1)

45 ニュースのじかん

ちいきのいいもの [第51回]

うまくてごめんな山菜 有限会社吾妻食品

あきらめなければ夢は叶う

岩手県 浅沼 徹

私は、あすなろ園産直羽場店でピアサポーター職員として仕事をしています。

2008年に事業所ができてからA型の利用者として働き、

最初はできないことが多かったのですが、

努力をして認められるようになりました。

そして「利用者から職員になる」という目標もできました。

しかし、そんな私にも不満がありました。

レジでお客様が待っている間も気づかない利用者がいたり、

ミスの対応を私が引き受けたりすることが多かったのです。

忙しいときに他の利用者が話に夢中になっているのを見て、

もっと協力してほしいと思うこともありました。

そのせいで態度や言葉遣いが悪くなり、

相手を嫌な気持ちにさせたこともあったと思います。



そんなとき、職員から「ピアサポート研修を受けませんか？」という話がありました。

内容を聞き、自分が成長できると思い、研修を受けることにしました。

このような大きな研修は初めてだったのでとても緊張しましたが、

「ピアサポート」について話を聞いているうちに、

自分にもできることがあると感じました。

研修では相手の話を聞き、立場を理解することの大切さを学びました。

同じ経験をしているからこそできるアドバイスもあると気づき、

「ピアサポーター」の役割を理解することができました。

そして昨年10月、私はピアサポート職員に登用されました。

不安もありましたが、周囲の応援に勇気をもらい、

自分も誰かを応援する側になろうと思いました。

そして私が一番言いたいのは、「障がいや持病があっても、

あきらめずに頑張れば目標は達成できる」ということです。

今後もピアサポーターとして、多くの人にこの思いを伝えていきたいです。



「わたしたちも言いたい」ではみなさまからのお便りを募集しています（宛先は48ページ）。
生活のこと、仕事のこと、暮らしのことなどふだん感じていることを書いてお送りください。

活用 守りたい 使いたい 保護 情報

災害時の
要援護者
名簿

取り扱う
人や範囲の
制限

学校の
緊急連絡網

適切な管理
と
取扱いルール

町内会や
自治会での
情報共有

本人の
障害状況や
通院・服薬の
情報



私たちの暮らしの中には、守るべき情報と活用される情報があります。
個人情報を適切に管理することは大切ですが、一方で必要な支援を受けるためには
情報を共有することも欠かせません。

本特集では、個人情報をめぐる課題や、福祉・医療・教育の現場での
情報の扱い方を掘り下げます。情報を託す側も受け取る側も、
互いに安心できる環境づくりについて、改めて考えてみませんか？

イラストレーション 高村あゆみ

知的障害者の情報を守り、 活かすために

全国手をつなぐ育成会連合会
常務理事 又村あおい

知的・発達障害のある人や子ども（以下、知的障害者）の暮らしを考えると、日常的な学校での教育や福祉サービスの利用はもちろんのこと、医療へのアクセスや災害時における避難行動への支援など、様々な場面で本人や家族の「情報」（以下、個人情報指す）を適切に活用することが求められます。

一方で、障害に関する情報は非常にデリケートです。特に症例の少ない難病などの場合、病名が知られることで容易に個人が特定されてしまうリスクも考えられます。知的障害者に関する情報の取り扱い、大変に悩ましいものです。

場面と個人差が大きい

情報の保護や活用は、場面や個人の考え方によって大きく異なります。

極端に言えば、同じ情報でも場面によって「守りたい」と「使いたい」が分かれますし、同じ場面でも立場によって「守るべき」と「使うべき」が分かれる可能性があるわけです。

一例として、本人の障害状況や通院・服薬の情報で考えてみると、多くの人は平時であれば「守りたい」と思うでしょう。しかし、災害時や緊急時であれば「使ってほしい」（情報を活用して適切に対応してほしい）と考える人が多いはずで

あるいは、在住市町村が記載されている特別支援学校の在校生名簿があったとしたら、育成会関係者であれば「使いたい」という可能性が高いですが、在校生保護者の立場であれば「守ってほしい（開示してほしくない）」と思う人もいます。

そして、この問題をさらに悩ましくし

表：情報を活かし、守るための方策

方策	ポイント
能動性を重視する	能動的に開示、提供される情報はトラブルなく活用できる
まずは個人との関係ではなく団体間の関係で	特に育成会活動の場合は、団体対個人の関係でなく、まず団体間の関係で進める